

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1. 教育学部・教育学研究科 4-1-1(研究)

教育学部・教育学研究科

- I 研究水準 4-1-2(研究)
- II 質の向上度 4-1-3(研究)

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 16 年度から平成 19 年度の 4 年間で単行本、学術雑誌、芸術作品・技術製品の発表、学会発表等の総数の平均は年間 177 件であり、大学と小・中・高等学校との共同研究は 4 年間で 19 件にのぼっている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数は、平成 16 年度以降、増加傾向にあり、採択率も 40%を超え、交付金額も平成 19 年度に約 5,900 万円に達しており、それを活用した活発な研究活動が展開されていることなどは、相応な成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では、美学・美術史及び教科教育の研究成果として、「内閣総理大臣賞」を受賞した日本画の創作や「鑑賞教育プログラム」に関する業績が出されており、相応の成果を上げている。社会、経済、文化面では、美術の教科教育分野の成果や教科専門分野、例えば日本語学では「日本語の文法」に視点を当てて、日本語への興味を広く喚起した成果、経済政策分野では「在宅健康管理の意識」向上に寄与した成果があり、社会的に有用性の高い成果を上げていることなどは、相応な成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

